2023年9月9日発行

発行：認定NPO法人 日本セラピューティック・ケア協会　発行者：武藤佐代子　印刷：ビーグ有限会社

セラピューティック・ケアの理念を繋げよう ～理事長交代にあたって～

武藤 佐代子

このたび、前任の城戸からバトンを引き継ぎ、3代目の理事長に就任いたしました。打診があったときは、本部のある福岡から一番遠い北海道在住ということで、当然ながら大いに悩みました。それでも最終的にバトンを受け取る決心をしたのは、セラピューティック・ケア一筋に命を懸け、あらゆる人々に届けたい、つなげていきたいという秋吉名誉理事長の熱い想いを受け取り、未来につなげていきたいと思ったからです。

12年前、伴侶を亡くして間もない頃、日総研通信講座のスクーリングで、私は初めてセラピューティック・ケアに出会いました。ケアする事で自分自身も癒されているという体験を通し、これぞ自分のライフワークだと確信したことを、今でも覚えています。

それ以来、ボランティアが生き甲斐となっていた私ですが、コロナ禍での3年間は、世間でも多くの活動が休止状態となり、当協会も2020年は全ての活動の休止を余儀なくされました。病院や施設で待っておられる方々に、手のぬくもりをお届けできなくなってしまったのです。ふれあうこと・手のぬくもりを感じていただくことができないのは、私たちセラピストにとっても辛く苦しいことでした。

しかし、そんな中でも、子育て支援ボランティアであるインファントセラピストは『今の時期だからこそ親子にケアを』と、各地の子育て支援に携わる施設と連携して活動を継続。現場からの要望で、新たに産後ケアやママケアの取り組みも始まりました。そして、子ども食堂などで親子に、コミュニティカフェで地域の方々に、また地域のイベントで手のぬくもりをお届けするなど、しっかりとリスク管理をしながら、できる事から一歩ずつ進んできました。

協会創設者である秋吉名誉理事長が英国赤十字社よりセラピューティック・ケアの日本での普及を託されてから25年。大切に、大切に育ててきた手のぬくもりを、25年前の想いのまま、これからもずっと、一人でも多くの方にお届けしていきたいというのが私の願いです。そして、私たちのミッション『手のぬくもりで、あらゆる人々に、尊厳と幸せを』と、ビジョン『手のぬくもりの環を各家庭へ、そして日本から世界へ』のもと、全国の会員が思いを一つにして、次の20年、25年に進んでいけるよう努めてまいります。

城戸前理事長(右)から武藤新理事長(左)へバトンタッチ

セラピューティック・ケアを最先端技術で再現、

結婚から40年、子育てと義母の在宅介護に明け暮れていた専業主婦である秋吉美千代が、60歳で出会った「セラピューティック・ケア」。以来20年以上におよぶボランティア活動で熟練の域に達した“84歳のセラピスト”の手技が、最先端技術によって再現され、世界のトップ企業も参加する国際見本市で発表されました。

始まりは1通のメールから

発端は、トヨタ紡織㈱車室空間企画開発部の金田浩二さん（グループ長）から協会本部宛に届いたメールでした。トヨタ紡織㈱は、トヨタグループのうち、車のシート等の内装システムを手掛けている会社で、金田さんは「リラクゼーション・システム」の開発に取り組まれるにあたり、セラピューティック・ケアに興味を持ち、連絡してこられたのでした。

その後、さまざまな過程を経て、技術協力が正式に決まりました。

未知のワクワク

技術協力は、協会でも極秘で、ごく少人数だけが関わって進められました。

金田さんのプロジェクトは、秋吉のセラピューティック・ケアの手技を最先端技術で再現するというもの。マッサージ機能を持ったシートは世の中にたくさんありますが、手のぬくもりと優しいタッチでリラクゼーションに導く機能を搭載したシートは、きっと世界で初めてではないでしょうか。

金田さんからお聞きする専門用語はまるでSFのような未知の世界でしたが、それだけにいっそうワクワクさせられ、広く皆さんにお知らせできる日が、とても待ち遠しく感じられました。

ボランティアを長年実践してきたからこその“熟練の技”

開発の過程で、秋吉の手技をロボットに記憶させる必要があり、何度も手技を実演しなければならない場面がありました。その時、測定されていた担当者が、何度繰り返しても一定の圧と速さを記録する秋吉の手技を「熟練の技ですね」と評されたことは、認定NPO法人である当協会にとっては、最高の賞賛のように感じられました。

秋吉はもともと、タッチやマッサージとは無縁で、結婚以来、子育てと義母の在宅介護に明け暮れていた一専業主婦でした。タッチセラピーに関わるようになったのは、1999年、60歳で訪れたイギリスでセラピューティック・ケアに出会ってから。

当時のビデオには、英国赤十字社ケント支部で研修担当の講師に習っているときの、なんとも不器用で危なっかしい、秋吉の“初めてのセラピューティック・ケア”の様子が記録されています。

そこから“熟練の技”に至った背景には、20年以上におよぶ、秋吉のボランティア活動がありました。英国赤十字社から手技とともに託された精神を愚直に守り、高齢者や病人、被災者、子育て中の母親など数千人の人々の心身を手のぬくもりで癒してきた、その実践の証でもあったのです。

▲「人とくるまのテクノロジー展2023」トヨタ紡織㈱ブースの前で

▲生まれてはじめて自分の手技を体感

▲CESのブースの様子

▲CESのブースで流れたPVより

▲リモートタッチセラピー

米ラスベガスでの“デビュー”

待ちに待った公開は、2023年1月、ラスベガスで開催された世界最大級の国際ハイテク見本市「CES」のトヨタ紡織㈱のブースにて。「リモートタッチセラピー」（RTT)という名称も、併せて発表されました。

日本での発表とRTT初体験

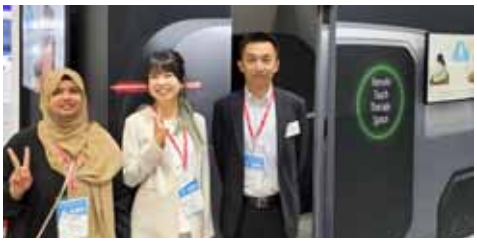
2023年5月、パシフィコ横浜で開催された「人とくるまのテクノロジー展2023」（5月24日～26日）で日本では初めて公開され、秋吉と武藤も実際に体験する機会をいただきました。完成したRTTとは、これが初めての“ご対面”です。

車のシートという構造上および時間的な制約上、手順はアレンジしているものの、大事なポイントである手のぬくもりや圧、ゆっくりした動きはRTTに再現されていました。実際に開発されたのは金田さんを中心とするトヨタ紡織㈱の方々ですが、何もないところから試行錯誤を重ねてやっと完成した、やっと発表できたRTTを前にして、秋吉には万感胸に迫るものがありました。

秋吉の手技を保存し再現するRTTは、秋吉に比べるとちょっと四角くて黒いですが、分身のようなものとも言えるかもしれません。今後、金田さんの手でさらなる改良が加えられ、車のシートに留まらず、世界中のさまざまな場所でRTTが活躍する未来を、今もワクワクしながら夢見ています。

ラスベガスでデビュー！ ～トヨタ紡織株式会社様への技術協力について～

「リモート タッチ セラピー」の開発経緯と日本セラピューティック・ケア協会様との出会い



トヨタ紡織株式会社 車室空間企画開発部
グループ長 金田浩二
（写真右端）

私の部署では、安全性と環境を重視しつつ、快適な車室空間の実現に向け、新たな付加価値の創造に取り組んでいます。私たちは数年前にゼロから「Remote Touch Therapy（リモート タッチ セラピー）」と呼ばれるリラクゼーション・システムの開発を始めました。

新技術開発のミッション

当初のミッションは「乗員の心のケア」で、音楽や香り、心地よい照明などを車室空間に組み込むことを最初に考えましたが、これらの要素は既に多くの製品で提供されており、新たな付加価値を生み出すには不十分だと私は気づきました。そして、独自の技術とデザインを活用して、本当に革新的な価値を提供したいと考えるようになりました。

「タッチセラピー」との出会い

どのようにして人々の心を癒すことができるのか？

いろいろと調査しているうちに、私は「タッチセラピー」という言葉に出会いました。タッチセラピーは撫でることで「オキシトシン」というホルモンが分泌され、リラックス効果があるとともに、うつ病や認知症予防にも効果があるとされていることを知り、直感的にこれが現代社会のニーズを捉えたものだと感じました。ただ、「撫でる」という触感をどのように再現すれば良いのか、この時点では想像することができませんでした。

タッチセラピーを再現できる最新技術との出会い

「タッチセラピー」を再現するには、様々な触感再現の先行研究や技術の調査も必要でした。振動子や空気、超音波を使った研究なども試しましたが、私が求める触感を再現することは非常に困難で、試行錯誤を繰り返してもうまくいきませんでした。

諦めかけていた時、慶應義塾大学ハプティクス研究センターが発表した「リアルハプティクス®技術」に出会いました。偶然にも大学のオープンセミナーが開催されており、実際に体感した瞬間に「これだ！」と確信しました。

この技術は、デジタルなシステムやデバイスを使用して触覚情報を伝え、触覚フィードバックや感覚再現を可能にする革新的な手法です。具体的に言えば、遠隔地にいる双方がリアルタイムに軽く手を触れ合うような感触を感じ合うことができ、またその絶妙な力加減をデータ化して何度も再現できるという特長があります。

私はすぐに企画書を作成し、その後も紆余曲折はあったものの、慶應義塾大学様との共同プロジェクトをスタートさせることができました。

セラピューティック・ケア協会様との出会い

この技術を活用してタッチセラピーを再現するためには、大型の装置を設計する必要がありましたが、私自身はタッチセラピーを受けた経験がなく、理解も十分とは言えなかったため、構造を具体的にイメージすることができませんでした。インターネットでタッチセラピーに関連する団体や店舗を検索したものの、膨大な情報の中から最適な一つを選ぶのは非常に困難でした。

そんな中で辿り着いたのが、日本セラピューティック・ケア協会様のウェブサイトでした。同協会が被災地支援や老人福祉施設でのケア活動をしていること、そしてさまざまな実証実験を通じて科学的検証を行っていることに興味を覚えました。私たちの開発部隊にとっては科学的な検証が不可欠であり、装置を使って実際に施術を行いデータ化する必要もあったため、協会の取り組みは重要なポイントでした。

まずはお話を聞いてもらいたいと思い、太宰府の協会本部を訪れました。その時初めて秋吉さん（理事長／当時）と城戸さん（副理事長／当時）にお会いし、トヨタ紡織の目指す姿や開発コンセプトを説明させていただいたのですが、突然の訪問者であるにもかかわらず、温かく出迎えていただき、私たちの話に真摯に耳を傾けてくださいました。セラピューティック・ケアの施術も秋吉さんからその時初めて受け、心が癒される感覚を実感しました。

いよいよ開発がスタート

その後、ありがたいことに私たちの取り組みに共感していただき、正式に開発に協力していただけることになりました。

まずは、装置の具体的な構造を打ち合わせや検証実験を繰り返しながら固めていきました。私自身も手技を理解しながら、構造のイメージを具体化していきました。

本来であれば、一連の手技を完璧に再現することが理想でしたが、シートの構造上、すべて取り入れることは困難だったため、協会様からのご意見や検証結果を参考にしながら、まずは効果が高いであろう肩（ストレスライン）を撫でる動作の再現に注力することにしました。

第1号機の完成

試作品の作り直しやデータ採取を何度も繰り返し、ようやくお披露目できる形になったのは、協会本部を訪れてから約2年半後のことでした（コロナの影響で予定していた展示会への出展が中止となり、実際のお披露目はさらに1年遅れました）。

この開発が進展したのは日本セラピューティック・ケア協会様のおかげです。本当にありがとうございました。

その後も、さまざまな場で多くのお客様にご体験いただき、新たな「心のケア」へのアプローチに対して多くの称賛をいただいています。お客様の声を通じて、その背後に大きなニーズが存在することを実感しています。

ただし、開発品はまだ途上段階であり、一般の方々に広く受け入れられる製品にするにはまだ時間がかかります。私たちは信念を持って改良に取り組み、より豊かな社会の実現に貢献していきたいと考えています。そのためにも、今後も日本セラピューティック・ケア協会様のご協力をいただければ幸いです。

産前産後ケア／ママケアの取り組み

コロナ禍でケア活動が軒並み休止・延期になるなか、前年度の2倍に活動が増えたのが、2019年から本格的に取り組んだ「産前産後ケア／ママケア」でした。子育て中の保護者の心身のケアのニーズはコロナ禍でいっそう高まり、ワークショップや産前産後ケア／ママケアの依頼が全国的に増えたためです。
各地で実施している活動をご紹介します。

苫小牧 Mom‘ｓサロンoasis

星 美紀

「Mom ‘ｓサロンoasis」は、苫小牧市が産前産後の母親たちの仲間作りのサロンとして、事業を展開するにあたり、母親を癒すセラピューティック・ケアの施術をしてほしいと依頼を受け、2019年4月からスタートしました。市健康支援課のご配慮もあり、回を重ねるごとに体験者は増え、一時期は順番待ちで整理券が配布されるほどの人気でしたが、コロナ禍に見舞われた2020年2月からは休止を余儀なくされました。

しかし、産前産後のナーバスになる時期に誰とも接触できず、ママたちが孤独になってしまうのではという危機感は私たちだけでなく市健康支援課も同じで、再開のお声掛けを下さり、感染対策を徹底してなんとか1回、開催することができました。

その後、手洗いや消毒など負担が増えるのも厭わず、継続して届けてあげたいという一心で参加してくれる会員、そしてコロナ禍でも増えていく希望者（ママたち）に励まされて、2021年度は蔓延防止期間以外の7回、2022年度はさらに1席増やして開催できました。ママたちが「また頑張ろうっと」と思ってくれるように、これからも楽しく明るく、ケアを通してママたちを応援していきます。

佐賀 みやき町とっこい子育て広場

鶴田 惠子

理事長の鬼塚さんは以前、「子育て中のママを癒やしたい」と当協会の入門講座を受講されたのですが、現実は業務に追われ、実現できなかったそうです。数年前、併設のカフェ「風のテラス」を訪問した際に鬼塚さんと再会し、「ママ達にセラピューティック・ケアをさせてください」と私が申し出たことから、この活動がスタートしました。

毎月2回、インファントセラピスト2名が10名前後の保護者や祖父母の方々にケアを行います。近隣からの受入れも柔軟で、経験豊かなボランティアスタッフの優しいまなざしとママ達のホッとした笑顔、お昼はカフェで思い思いのランチタイム。ママケアのリピーターも多く、私達も毎回楽しみに伺っています。

子育て応援はまず子育て中のママ達のケアから、というのが当協会の子育て支援の考え方です。「子育てって楽しいよ」という家族が増えますように♡

福岡 コミセン和白

河島 ゆかり

2月に開催された「コミセン祭り」への初参加をきっかけに、4月から毎月一回、乳児健診（1歳半と3歳半）にお越し頂いたママに健診の後キッズルームでケアを受けて頂ける事になりました。子育て中のママは自分のための時間を後回しにしがちです。「手って温かくて気持ちがいいんですね」「眠たくなりました」「マスク生活が長くて、触れることにも、触れられる事にも慣れていなかったけど受けてみて子供にもしてあげたい」と喜んでいただけます。

最近ではパパの姿も多く見られるようになり、ご夫婦で受けられます。ママに見守られながら安心して子ども達が遊べる様になったり、初めて会ったママ同士がにっこりしている姿に私たちも癒されています。

北九州 本城市民センター

宇塚 美千代

「気になっている親子がいるんだけど」という館長の言葉で、あるママにネック&ショルダーケアをしました。ケアを受けている間に、そのママの目から涙が。実は転勤で慣れない土地での子育てを頑張っておられるママでした。

このことをきっかけに月3回、子育て支援フリースペースでのママケアを開始しました。ママの表情が変化するにつれて、子どももどんどん表情が明るくなります。「ケアを受けた後、1週間がハッピーでした」の声に、私も嬉しくなりました。

他のママにも声をかけると「肩が凝っていたの」「今日来てよかった」などの声。言葉の通じない外国のママにも施術しました。手のぬくもりは国境を越え母親に寄り添う子育て支援へと繋がることを実感しています。

北九州 高見市民センター

前田 英子

市民センターの職員の方のお力添えで、毎月配布されるチラシで本ケアを紹介していただいています。おはなし会の始まる前の時間、玩具のある空間でお子さんが遊んでいる間にママケアをさせていただき、「ぽかぽか温かくなって気持ちよかった」「リフレッシュできた」等、穏やかな気持ちになったママとお隣の部屋で絵本を楽しみます。

おはなし会の方々とのコラボで、親子の楽しい空間、ひとときを作れるお手伝いが出来たらとの思いで回を重ねています。自宅の近くで細く長く活動を続けて行けたらと思っています。

本部 苫小牧 表彰していただきました
2023年2月

秋吉美千代名誉理事長が、「太宰府市制施行40周年記念式典」において、太宰府市より特別表彰を受けました。また、とまこまい支部が苫小牧市から「福祉のまちづくり表彰」で表彰を受けることになり、森本支部長が代表して表彰状と記念品を頂戴しました。

どちらも多くの方の応援があってこその表彰であり、この賞に恥じないよう、今後も精進して参ります。

太宰府市長(右)とともに

苫小牧市長(左)とともに

本部 福岡県のSDGs登録団体になりました
2023年2月7日

このたび当協会は福岡県のSDGs登録団体となり、電気ビル共創館みらいホール（福岡市）で開かれた登録証交付式にて、城戸由香里前理事長が登録証をいただきました。SDGsの3つ目のゴールである「すべての人に健康と福祉を」を主たる目標に置き、今後も取り組んでいきます。

福岡 ふくおかハウスでのケア活動
病気の子どもを持つ家族への支援取組み

ドナルド・マクドナルド・ハウスは、病気と日々向きあっている入院中の子ども達のご家族の経済的、精神的負担を減らすことを目的に、心から安らげる場所として1人1日千円でご家族が滞在できる施設です。運営は100%ご寄付と様々なご支援で成りたっています。ハウスは全国に12か所あり、そのひとつである「ふくおかハウス」で2022年10月から、毎月活動させていただけることになりました。コロナ感染拡大の為、12月から活動中止となりましたが、今年6月から半年ぶりに活動が再開されました。

セラピューティック・ケアを受けて、ご家族の心身が少しでも楽になってもらいたいというのが当協会の願いです。ボランティアを受け入れて頂いたことに感謝し、心を込めて手のぬくもりを届けていきたいと思います。

(河島ゆかり)

本部 健やかに、輝きながら人生の後半を生きる ジェンダーフリープロジェクトが始動
2023年2月12日

自身が更年期症状に苦しんだ経験から「更年期からの女性の健康」をテーマに各地でセミナーを行われているMINX代表の石丸律子先生と秋吉美千代名誉理事長が出合い、「ジェンダーフリープロジェクト」を結成。第1回セミナーは「『なんとなく不調』を『あっ！そうだったのかー』に変える　45歳からの健康セミナー」と題して、佐賀市アバンセで行われました。

参加者18名(うち男性1名)によるセミナー後のアンケートでは「イライラしていた自分に嫌悪感があったが、改善のヒントが見えてきた」「手のぬくもりで心まで温かくなり、ぬくもりのすばらしさを感じた」等の感想が寄せられました。今後は福岡でもセミナーを開催したいと検討中です。

(平川富美子)

本部 手のぬくもりで、社会復帰の後押しを 麓刑務所を慰問
2023年6月

鳥栖市の麓刑務所を佐賀の会員とともに訪問し、受刑者にセラピューティック・ケアをお届けしました。

同施設は九州唯一の女子刑務所で、今回のケア提供は、社会復帰支援指導の一環として依頼のあったもの。ケアを受けることにより、受刑者が自分自身と向き合い、また自分を支援してくれる人たちがいると知ることで、出所後、周囲と良い関係を築き、再び罪を犯すことなく、より良い人生を全うしてもらうことが目的です。

この日受けられた4名の女性は最初、緊張した面持ちでしたが、徐々に体の力が抜け、施術後には「心がほぐれて、体が軽くなった。（受ける前と）全然違う」「心が癒された」「刑務所にいることを忘れるくらい気持ちよかった。手からやさしさが伝わってきて、パワーをもらった」と柔らかい表情に変わられていました。

セラピューティック・ケアでひとときでも平和な時間を過ごしていただき、人と人とが手のぬくもりを通じて繋がれたらと願っています。

写真提供：麓刑務所

連載 各地区たより ～ 新潟 ～

日本全国にいる会員の皆さんの活動や思いを知り、つながりを感じるための連載企画です。

ワイナリーを臨みながら、癒しのケアを提供

佐藤 佳奈子

ぶどう畑と角田山を臨む「カーヴドッチ・ワイナリー」(新潟市)で開催された「まなびやコンサート」に、セラピューティック・ケアの体験コーナーを出展しました。ウェディングも行われる優雅なホールで、ソプラノの歌声・篠笛・ピアノの音楽を贅沢に楽しみながら、8名の方にネック&ショルダーケアをスタッフ2名でお届けしました。

窓からは自然豊かな景色が眺められ、癒しの空間でケアを受けられた方からは「気持ちがいい」「温かい」「眠くなった」「ホスピスで喜ばれそう」と感想を頂きました。

本当に久しぶりの活動でしたが、シンプルでパワフルな素晴らしいケアだと改めて実感しました。セラピューティック・ケアを初めて耳にするという方ばかりでしたが、ボランティアということにも非常に驚かれました。

2023年もお誘い頂き、素敵な会場で音楽とともに体験コーナーを出展します。これからも新潟の地にもっともっと手のぬくもりと心のぬくもりを届けていきたいと思います。

通信教育受講生レポート ―レポート19―

日総研セラピスト資格認定講座を受講・修了し、インストラクターの資格を得るために、施設で実習後提出されたレポートです。

M.Mさん（兵庫県）

私は看護師として勤務して33年目になりますが、自分の人生を振り返った時、何かやり残したことがあるような思いが常に胸の底にありました。介護支援専門員として初年度より兼任で働き、平成19年からは専任でケアマネの業務をしながら入退院のフォローやその他の業務を兼任しています。入院中の高齢者の方々には私にできる「何か」がないかと思い、種々の説明会や資料を見ましたが年齢的に難しく、諦めに近い心境になっていました。そんな時、上司からセラピューティック・ケアの情報を得て「これなら何とか出来るのでは」と思い即座に申し込みました。施術する時間が思うように取れませんが「私はセラピューティック・ケアをやっています」と胸を張って言えるようになり、長い人生を頑張ってこられた方々に少しでも「心の安らぎ」をもっていただけるよう頑張ってみたいと思っています。

当協会の活動を応援してください！

当協会は2014年7月、福岡県より認定を受け、福岡県の認定による最初の「認定NPO法人」となりました。認定NPO法人は、運営組織や事業活動が適正であり、公益性の高い活動をしていると認められた団体で、1口3,000円以上の寄附者を毎年100人以上集めることが義務づけられています。皆さまの温かいお気持ちを手の温もりに変え、一人でも多くの方にお届けできるよう、ぜひ当協会を応援してください！

■お振込でのご寄附

協会HPより「寄附金申出書」をダウンロードしてご送付いただき、下記の口座にお振込みください。

ご寄附専用口座　ゆうちょ銀行 01770-6-166454 (特非)日本セラピューティック・ケア協会
(通信欄に、お名前・ご住所をご明記ください)

＊他金融機関からお振込みいただく場合は、
ゆうちょ銀行　一七九(イチナナキユウ)店(179)　当座　0166454
特定非営利活動法人日本セラピューティック

3.000円以上のご寄附は税控除の対象になります。確定申告を行うことで、ご寄附の最大約50%が戻ってきます。控除を受けるためには、寄附金申出書など所定の手続きが必要となりますので、お住いの市町村にお尋ねください。

詳しくはHP https://therapy-care.net/donation/ をご覧ください。

■スマホで応援する　～ソフトバンク「つながる募金」をご利用ください～

ソフトバンクのスマホやPCから簡単に当協会へのご寄附ができます。ソフトバンクスマホをご利用の方なら、携帯電話の利用料金のお支払いと一緒に継続的なご寄附が可能。またソフトバンク以外のスマホからもクレジットカードによるご寄附が可能です。

つながる募金

■皆さまからいただいたご支援の使いみち

当協会では生老病死すべての場面で、手のぬくもりを通して、心のぬくもりをお届けしています。
いただいたご寄附や支援金は、高齢者支援、子育て支援・産後ケア、被災地支援などの公益活動に使わせていただきます。

認定NPO法人
日本セラピューティック・ケア協会
心とからだに寄り添う"手当て"

〒818-0125
福岡県太宰府市五条2-6-1-202
TEL:092-928-1546
FAX:092-555-9401
E-mail:info@therapy-care.net
URL:https://therapy-care.net